

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171600253		
法人名	有限会社 あい케어		
事業所名	たけのこし A舎		
所在地	瑞浪市薬師町2丁目52番地		
自己評価作成日	令和6年6月31日	評価結果市町村受理日	令和6年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171600253-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和6年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の笑顔、利用者様一人一人の個性を大切に、個々に合わせたケアを心掛けています。季節感を大切に、行事食と一緒に作ったり、季節の作品づくりをしています。今まではコロナで、思う様に出掛けたりする事が出来なかったため、これからは外出の機会を増やし利用者様に気分転換をしてもらえる、行事を取り入れて行こうと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染症は5類への移行となったが、依然として感染のリスクは継続している。調査当日も、ホーム内に感染者が出たため、評価者は事務室以外への立入りを自粛した。そのように、コロナ禍が継続する中ではあるが、工夫して利用者に参加できることを検討し、利用者様の笑顔を大切に利用者本位の支援に努めている。家族に対して、大切な家族(利用者)がホームの中で楽しく過ごしていることを積極的に発信し、家族の意向に沿った支援ができるよう話し合いを心掛けている。利用者ごとに写真を使った個別の「たけのこし便り」を作成し、毎月家族に送付している。家族アンケートには、「毎月楽しみにしている」との好評のメッセージが寄せられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム、玄関等目の届く所に掲げ、いつでも意識・共有できるようになっていきます、更にミーティングでどの様に実践に繋げていくかを話し合い取り組んでいます。	理念にある「その人らしさ」と、職員の「優しさ」というキーワードを重視している。利用者同士の関わりと、それによって起こる反応に注目し、そこに職員が意図的に関わることで、第2の住まいとして穏やかに過ごしてもらえるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	徐々に地域の行事が再開され始めましたので、区長さんにお願ひし、お祭りやお神輿など出来る限り参加しようと思います。	コロナ禍以後、徐々に地域の行事が再開されている。しかし、長かったコロナ禍による中断のため、規模の縮小やあり方の変化がある。参加の形を工夫し、地域との関わりを維持している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月からは、たけのこでの運営推進会議を予定しています。市役所、民生委員、区長、長寿会、ご家族様に参加頂き、書面では出来なかった現状を見ての意見交換等出来る様にしていきたいと思っています。	感染予防のため、書面開催を継続し、書面を送付して意見を求めていたが、8月からは対面での運営推進会議を予定している。行政担当者の異動や利用者の入替によりメンバーに変更があるが、活発な意見交換等が期待されている。	コロナ感染症への感染防止を目的として、長く書面開催が続いていた。久しぶりの対面での運営推進会議が、盛況で、かつ成果を挙げることを期待したい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市から書面にて意見や質問を頂ける様に用紙を同封したり、行政との互いの協力やケアサービスの向上、周知に取り組んでいます。	市の福祉課や介護保険課だけではなく、ホーム改修の助成制度を利用するため、担当課との新しい連携が生まれた。研修や介護保険の改正情報はメール等で情報を取得し、運営や利用者の処遇について、相談する協力関係ができています。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の具体的な行為を周知し、県主催の研修に参加したり、ミーティング、運営推進会議でも取り上げ、ヒヤリハットや事例を参考にし、知識の向上と理解に役立てるよう取り組んでいます。	2ヶ月ごとに身体拘束廃止委員会を行い、議事録に残して全職員に回覧している。日常の支援の中で、不適切ケアに該当するリスクの高い事柄を研修で取り上げ、意識の向上を図っている。気になる言動があればその都度指導している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催の研修に参加したり、ミーティング、運営推進会議でも取り上げ、ヒヤリハットや事例を参考にし、知識の向上と理解に役立てるよう取り組んでいます。	会議や研修参加等の様々な機会を捉え、職員に虐待防止の意識の徹底を図っている。薬による活動性の低下は、意図したものでもなくとも、服薬の状況を観察し、医師と看護師（職員）が連携してドラックロックとならないよう対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日頃のケアだけでなく、制度・事業内容等に触れる機会を持ち、理解・活用出来る様に取り組んでいます。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談・契約時には必ず、代表者と管理者立ち会いの下、家族へ丁寧に話をさせていただいています。具体例を挙げ、質疑応答で不安を取り除き、双方納得した上での契約を行っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の会話から要望をお聞きし、ご家族様にはケアプランの返信や、電話で生活の様子をお伝えして意見を頂き、ケアプランや運営に反映出来る様、努めています。	感染症の状況に応じ、面会方法の案内を請求書に添付して家族に周知している。利用者の個別の写真を載せた「たけのこし便り」は、楽しそうな様子が伝わって家族から好評を得ている。家族の面会時には、管理者等が直接様子を伝え、家族の意向を聞き取っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で全員ミーティングが出来なかったため、代表者が管理者、職員から個別に話を聞いたり、管理者が職員の意見を代表者に伝えたりと、積極的に意見交換をしていますが、これからはミーティングを定期的に開催するよう努めます。	全体ミーティングに参加できない職員の意見は、事前に聞き取ってミーティング後に朝礼などの機会に伝達している。勤務体制や勤務シフトの時間等は、職員の事情を考慮して変更する等、柔軟な運営に取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表、管理者は職員の労働状況を把握し、人事考課表を参考に、必要に応じて、話し合いをしながら出来る限り、就業環境の改善に努めています。	日々の勤務や有給休暇の取得状況を把握し、職位に応じたシフト調整や変更に対応している。外部の社会保険労務士に労務管理や就業規則などの管理を依頼し、就業環境の整備を行い、働きやすい職場作りに取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修、個々に必要な研修には、シフトを調整し参加しています。研修後、資料を他の職員に読んでもらったり、内容を報告する機会を作って全職員に周知しています。	新入職員の育成・指導は、管理者や先輩職員についてOJTを中心に行っている。外部研修など、リモートで開催される研修は参加しやすく、積極的に活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換等を行っています。他のグループホームとの交流の場がもっと多くあれば良いと思います。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、出来ないことを見極めて、出来ることは本人のペースに合わせてやって頂くようにしています。生活の場なので、一緒に食事をとったり、声掛けしお手伝いをお願いすることもあます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で利用者から思いを聞きとり、管理者・ケアマネ・職員、時には家族と話し合いをし、希望に添えるよう誠意をもって対応するよう努めています。	利用者本人には、日常の会話の中で意向を聞いたり、汲取っている。家族とは、定期的な面談の機会は持っていないものの、面会時や電話連絡などの機会を捉えて、本人の生活歴や価値観、家族の意向等を聞き取っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の希望や特徴を把握し、ご本人、ご家族からも話を聞き、随時、見直しを行いケアプランを作成しています。	利用者の思いや家族の意向を取り入れ、具体的な目標を設定した介護計画を作成している。支援の方法や内容、支援を行う時間、その目的などを細かく記載し、すべての職員が理解した上で支援できるよう工夫している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・送りノート等の記録や、利用者様への聞き取りを元としケアプランを作成しています。職員からも利用者様の情報を共有し、介護計画の見直しについて話し合いをしています。	ミーティング時に利用者個々の支援について話し合い、その結果を介護計画に反映させている。話し合ったことは議事録に残し、全職員に周知している。利用者の思いや個別対応について、細かく介護計画に記載してある。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に合わせ、柔軟に対応を心掛けています。家族から要望があれば、できる限り相談に応じ行う様に心掛けています。	家族の要望には、可能な限り実現できるよう努めている。利用者が生き生きと活動できるよう、適切な環境を用意し、利用者個々のニーズに合わせた柔軟な支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の得意な事、出来る事を把握し、皆さんで協力し合って生活していると、やりがいを感じ、楽しんでもらえる様に心掛け支援しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医を継続するか、提携医の月2回訪問診療にするかを、ご家族に決めて頂きます、歯科等もご家族からの希望があれば支援しています。	訪問診療の前に、医師に利用者の状態を連絡している。看護師資格を持つ職員と医師が連携し、適切な医療を提供している。訪問診療以外の受診の際は、家族対応を原則としているが、緊急時や家族の事情を考慮し、ホームで対応することもある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者様・ご家族様の希望に合わせた対応が出来るよう連携に努めています。病院主催の研修等には参加するようにしています。	入院中は、全体を把握している事務員が中心となり、病院の相談員や家族、管理者等との情報共有を図っている。退院後に、心身の状態によってホームでの受入れができない場合は、家族に丁寧に説明して今後について話し合いを行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には入所時の契約で、重度化した場合について説明させて頂きます。終末期のあり方については、話し合いをし出来る限り家族の希望に添える様努めています。	利用者の重度化に際し、本人の状態や家族の希望を優先し、可能な限りホームで対応するようにしている。しかし、医療的ケアが必要な場合には、ホームでできること、できないこと等を丁寧に説明し、本人・家族の納得した支援に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや災害対策マニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングで対応の確認もしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練と他に1度の自主訓練、合計年2回以上行っています。BCPやハザードマップを利用し、地域の方とも協力し対応出来るよう連携をとっています。	避難訓練を定期的(年間2回)に実施している。指定の避難所までは距離があるため、近くのスーパーの担当者と協力体制(避難場所)について話し合っている。浸水リスクの指摘があり、垂直訓練を実施した。簡易トイレの準備もある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を尊重しながら、穏やかに過ごして頂けるよう、コミュニケーションをとり、個人に合わせたケア・言葉かけを心掛けています。	利用者と職員との良好なコミュニケーションが図られているが、「親しき仲にも礼儀あり」を意識し、職員は一線を越えないよう留意している。大声や荒々しい口調もなく、職員の声掛けや呼び掛けは適切である。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から希望や思いをくみ取り、色々な場面で自己決定出来るような場面を作ったり、声掛け支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れの中で、個々の体調や気分配慮・尊重し、穏やかに過ごして頂けるよう、ご本人の希望に沿うよう支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる様に、献立は季節感のある料理を取り入れたり、利用者様と職員とで協力し、おはぎや朴葉寿司を作ったり、利用者様の食べたいものをメニューやおやつに取り入れています。	季節の旬の食材も取り入れ、三食手作りの食事を提供している。利用者のリクエストに応えたメニューやおやつを提供し、お寿司の出前を頼んだりして、非日常の食事も楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良い献立を心掛け、量や形態については個々に対応する事で栄養の確保に努めています。水分補給は食事・お茶の時間、それ以外の時間でもスポーツドリンクなどを用い、摂取量も把握し支援しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し清潔保持し、必要に応じて職員が介助しています。週に1度は義歯を洗浄剤にて洗浄しています。場合によっては歯科医に受診をしています。	口腔ケアに力を入れおり、利用者の歯磨きをチェックして、必要に応じて職員が解除している。歯科医から歯磨きについての助言をもらい、歯や舌の清掃、義歯の管理をし、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の生活のリズムに合わせて、時間をみて声掛けしています。排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、支援しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週に2回と決めています。個々の体調や要望に合わせて介助し、ゆったりと湯船に浸かって頂き、楽しくくつろげる時間になるよう心掛け支援しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調変化に注意し、日中でも様子をみて休んでもらうようにしています。休息、入床、起床時間は利用者の希望を尊重し、支援をしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法・容量を理解し、翌日1日の分を夜勤者がセットし、再度、内容を確認、声掛け服用し飲み込むまで見守りしています。	服薬前には、名前と日付を利用者と職員で確認し、複数回のチェックを経て、確実な内服ができるようルールが徹底されている。看護師資格を持つ職員が中心となり、薬の内容を把握し、服薬後の状態を観察して医師との連携を図っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事を活かし、家事・レクの役割をお願いしたり、トランプ・体操・畑仕事・パズル等各種レクを、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。	利用者同士でおしゃべりをしたり、ユーチューブの動画で体操や歌、料理等を楽しんでいる。畑で野菜作りや草取りを行い、収穫した野菜は食卓に上がる。利用者個々の特技を活かした楽しみや役割作りを意識している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	遠くへの外出は介助が必要な利用者様が、多く、難しいのですが、近くの公園に車で出掛けお花見をしたり、庭でのお茶や、少人数での散歩や畑作業で、出来る限り外に出られるよう支援しています。	コロナは5類に移行したが、感染を警戒して人の多いところを避け、花見や近くの公園に行ったりしている。庭でのお茶会やお弁当を食べるなど、外の空気をを感じる機会を作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナが収まってきたので、人出の少ない時間に一緒に出掛け、好きな物を買えるような支援を考えています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の部屋で、ゆっくりと電話で話ができるように支援しています。暑中見舞いや年賀状を塗り絵にし、メッセージを入れてご家族に送っています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が心地よく過ごせるように、温度や明るさを調整し、フロアには余分な物を置かず、1日2回の清掃で清潔保持し、季節の花やレクで作った壁飾り飾っています。	調査当日、ホーム内でコロナ感染症に罹患した利用者が出たため、事務室だけへの立入りにとどめ、共用空間の見学は自粛した。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいたり、テレビを観ていたり、お部屋で休んだり、利用者様それぞれにくつろげる環境を作れるよう心掛けています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からお話を聞き、落ち着いて過ごせる環境作りを心掛けています。利用者様の大事にしてきた物をお部屋に取り入れる様、出来る限り支援しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畑仕事、数字計算、体操など、残存能力を把握し、一人で出来ることは職員が見守り、清潔で安全な生活空間になるよう、工夫し確保しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2171600253		
法人名	有限会社 あい케어		
事業所名	たけのこし B舎		
所在地	瑞浪市薬師町2丁目52番地		
自己評価作成日	令和6年6月30日	評価結果市町村受理日	令和6年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171600253-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和6年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の笑顔、利用者様一人一人の個性を大切に、個々に合わせたケアを心掛けています。季節感を大切に、行事食と一緒に作ったり、季節の作品づくりをしています。今まではコロナで、思う様に出掛けたりする事が出来なかったため、これからは外出の機会を増やし利用者様に気分転換をしてもらえる、行事を取り入れて行こうと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム、玄関等目の届く所に掲げ、いつでも意識・共有できるようになってい ます、更にミーティングでどの様に実践に繋げ ていくかを話し合い取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられ るよう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	徐々に地域の行事が再開され始めましたの で、区長さんをお願いし、お祭りやお神輿な ど出来る限り参加しようと思います。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	8月からは、たけのこでの運営推進会議を 予定しています。市役所、民生委員、区長、 長寿会、ご家族様に参加頂き、書面では出 来なかった現状を見ての意見交換等出来る 様にしていきたいと思っています。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	運営推進会議で市から書面にて意見や質 問を頂ける様に用紙を同封したり、行政との 互いの協力やケアサービスの向上、周知に 取り組んでいます。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サ ービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サ ービス指定基準における禁止の対象となる具体 的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠 を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでい る	職員は身体拘束の具体的な行為を周知し、 県主催の研修に参加したり、ミーティング、 運営推進会議でも取り上げ、ヒヤリハットや 事例を参考にし、知識の向上と理解に役立 てるよう取り組んでいます。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注 意を払い、防止に努めている	県主催の研修に参加したり、ミーティング、 運営推進会議でも取り上げ、ヒヤリハットや 事例を参考にし、知識の向上と理解に役立 てるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日頃のケアだけでなく、制度・事業内容等に触れる機会を持ち、理解・活用出来る様に取り組んでいます。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談・契約時には必ず、代表者と管理者立ち会いの下、家族へ丁寧に話をさせていただいています。具体例を挙げ、質疑応答で不安を取り除き、双方納得した上での契約を行っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の会話から要望をお聞きし、ご家族様にはケアプランの返信や、電話で生活の様子をお伝えして意見を頂き、ケアプランや運営に反映出来る様、努めています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で全員ミーティングが出来なかったもので、代表者が管理者、職員から個別に話を聞いたり、管理者が職員の意見を代表者に伝えたりと、積極的に意見交換をしていましたが、これからはミーティングを定期的開催するよう努めます。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表、管理者は職員の労働状況を把握し、人事考課表を参考に、必要に応じて、話し合いをしながら出来る限り、就業環境の改善に努めています。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修、個々に必要な研修には、シフトを調整し参加しています。研修後、資料を他の職員に読んでもらったり、内容を報告する機会を作って全職員に周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換等を行っています。他のグループホームとの交流の場がもっと多くあれば良いと思います。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、出来ないことを見極めて、出来ることは本人のペースに合わせてやって頂くようにしています。生活の場なので、一緒に食事をとったり、声掛けしお手伝いをお願いすることもあます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で利用者から思いを聞きとり、管理者・ケアマネ・職員、時には家族と話し合いをし、希望に添えるよう誠意をもって対応するよう努めています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の希望や特徴を把握し、ご本人、ご家族からも話を聞き、随時、見直しを行いケアプランを作成しています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・送りノート等の記録や、利用者様への聞き取りを元としケアプランを作成しています。職員からも利用者様の情報を共有し、介護計画の見直しについて話し合いをしています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に合わせ、柔軟に対応を心掛けています。家族から要望があれば、できる限り相談に応じ行う様に心掛けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の得意な事、出来る事を把握し、皆さんで協力し合って生活していると、やりがいを感じ、楽しんでもらえる様に心掛け支援しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医を継続するか、提携医の月2回訪問診療にするかを、ご家族に決めて頂きます、歯科等もご家族からの希望があれば支援しています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者様・ご家族様の希望に合わせた対応が出来るよう連携に努めています。病院主催の研修等には参加するようにしています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には入所時の契約で、重度化した場合について説明させて頂きます。終末期のあり方については、話し合いをし出来る限り家族の希望に添える様努めています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや災害対策マニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングで対応の確認もしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練と他に1度の自主訓練、合計年2回以上行っています。BCPやハザードマップを利用し、地域の方とも協力し対応出来るよう連携をとっています。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を尊重しながら、穏やかに過ごして頂けるよう、コミュニケーションをとり、個人に合わせたケア・言葉かけを心掛けています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から希望や思いをくみ取り、色々な場面で自己決定出来るような場面を作ったり、声掛け支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れの中で、個々の体調や気分配慮・尊重し、穏やかに過ごして頂けるよう、ご本人の希望に沿うよう支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる様に、献立は季節感のある料理を取り入れたり、利用者様と職員とで協力し、おはぎや朴葉寿司を作ったり、利用者様の食べたいものをメニューやおやつに取り入れています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良い献立を心掛け、量や形態については個々に対応する事で栄養の確保に努めています。水分補給は食事・お茶の時間、それ以外の時間でもスポーツドリンクなどを用い、摂取量も把握し支援しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し清潔保持し、必要に応じて職員が介助しています。週に1度は義歯を洗浄剤にて洗浄しています。場合によっては歯科医に受診をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の生活のリズムに合わせて、時間をみて声掛けしています。排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、支援しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週に2回と決めています。個々の体調や要望に合わせて介助し、ゆったりと湯船に浸かって頂き、楽しくくつろげる時間になるよう心掛け支援しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調変化に注意し、日中でも様子をみて休んでもらうようにしています。休息、入床、起床時間は利用者の希望を尊重し、支援をしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法・容量を理解し、翌日1日の分を夜勤者がセットし、再度、内容を確認、声掛け服用し飲み込むまで見守りしています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事を活かし、家事・レクの役割をお願いしたり、トランプ・体操・畑仕事・パズル等各種レクを、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	遠くへの外出は介助が必要な利用者様が、多く、難しいのですが、近くの公園に車で出掛けお花見をしたり、庭でのお茶や、少人数での散歩や畑作業で、出来る限り外に出られるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナが収まってきたので、人出の少ない時間に一緒に出掛け、好きな物を買えるような支援を考えています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の部屋で、ゆっくりと電話で話ができるように支援しています。暑中見舞いや年賀状を塗り絵にし、メッセージを入れてご家族に送っています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が心地よく過ごせるように、温度や明るさを調整し、フロアには余分な物を置かず、1日2回の清掃で清潔保持し、季節の花やレクで作った壁飾り飾っています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいたり、テレビを観ていたり、お部屋で休んだり、利用者様それぞれにくつろげる環境を作れるよう心掛けています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からお話を聞き、落ち着いて過ごせる環境作りを心掛けています。利用者様の大事にしてきた物をお部屋に取り入れる様、出来る限り支援しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畑仕事、数字計算、体操など、残存能力を把握し、一人で出来ることは職員が見守り、清潔で安全な生活空間になるよう、工夫し確保しています。		